

1、外海地区の振興策について

(1) 光回線整備の検討状況

【質問】

本年6月定例会の市長の施政方針の重点プロジェクトで「光回線を利用した超高速インターネットサービスが、市内の一部地域で利用できないことによる、地域間の情報格差を解消するため、その環境整備に向けた取り組みを進めます。」と表明されました。

この施政方針は今後4年間で取り組むこととなっていると思いますが、方針の中で一部地域と表現されております。具体的に一部地域とはどこなのか、また、利用できない地域に対する整備について、今後どのように進めるのか、その検討状況をお伺いいたします。

【回答】

市内で光回線の超高速インターネットサービスが利用できない地区は、外海地区、式見地区及び高島地区の全域、福田地区、琴海地区、土井首地区、茂木地区、野母崎地区、三和地区の一部となっております。

現在の取組としては、財政負担の概算を行うため、通信事業者に対し環境整備に係る事業費について照会をしているところです。環境整備にあたっては、整備後のランニングコストを含め相当額の経費が必要と見込まれる中で、整備主体を市とするのか、あるいは民間事業者とするのかという点も重要な判断の内容となってくるところであり、さらに多額の財政負担の軽減のための有利な地方債の活用なども含めて、具体的な検討を進めることとしています。

(2) 池島地区の移動手段の確保

【質問】

現在、市が西海交通に委託してコミュニティバスが運行されています。本年3月までは毎日運行されておりましたが、4月からは運転手の確保が厳しいとの理由で、日曜・祝日は運休となっております。

そのような中で、日曜・祝日に炭鉱体験などで島を訪れた観光客から、移動手段が

ないので大変困ったとの意見が寄せられたとも聞き及んでいますが、コミュニティバスは、島内の唯一の交通手段であり、観光客や島内住民にとっては生活に大きな支障をきたしているのではないのでしょうか。

このような状況に対して、市は今後、どのような対策を考えているのかご見解をお聞きいたします。

【回答】

日・祝日の運休による観光客への影響に対しては、現在、地元自治会が電動自転車3台の貸付を行っており、さらに、池島居住の元長崎市地域おこし協力隊員が、市の起業等支援補助金を活用して、電動自転車5台を購入し、レンタサイクル事業を開始しようとしているところです。

そのほか、池島の観光ツアーで特に、島内を周遊する希望者のある参加者については、ツアー事業者の車両にて送迎を行っていただくよう対策を講じております。

2、長崎平和マラソンの進捗状況について

【質問】

令和2年11月29日に長崎市では初めてのフルマラソン「長崎平和マラソン」が「被爆地長崎から核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けたメッセージを発信するとともに、長崎市のスポーツの振興を図り、あわせてスポーツを通じた交流人口の拡大、地域経済の活性化につなげる」ことを目的に開催されます。

開催に向けマラソンコースや募集人員等も決定し、実施に向けた準備が着々と進められていると思いますが、現時点において、実施に向けた進捗状況と、今後の具体的な検討課題についてお伺いいたします。

【回答】

今年度の取組に関しては、マラソン専門業者からの支援を受け、基本計画をベースに実施計画を策定するとともに、協賛獲得やランナー募集、交通規制に関する周知、関係機関との継続的な協議など、より具体的な準備を進めてまいります。

公認取得に向けては、今年7月に自転車によるコースの仮計測を実施したところであり、また、大会の情報発信の手段の一つでもあります、大会公式ホームページについては、9月2日に開設をいたしましたので、今後、実行委員会の参加団体が持つホームページとのリンクを設定し適時、情報発信に努めてまいります。

3、風頭公園及び周辺の整備について

【質問】

風頭公園内の歩道の改修や老木化した桜の植樹を今年度を実施していただくなど、市として公園の整備に尽力していただいたことには、感謝をいたしておりますが、昭和53年の開設以来41年が経過をしており、施設が老朽化している展望台やトイレのバリアフリー化、遊具のリニューアル又は集約化、駐車場の整備など、抜本的に再整備の時期を迎えているのではないかと考えますが、市のご見解をお伺いいたします。

【回答】

駐車場については、公園周辺の道路が狭小であるなどの問題もあり、公園内に駐車場は整備されていない状況です。

公園開設以来約40年が経過し、様々な問題があることは認識しておりますので、まずは短期的に分散している遊具を集約化し、リニューアルすることについて検討を進めます。中長期的には、老朽化し、バリアフリー化されていない展望台やトイレ等についても、引き続き地域の皆様のご意見を伺いながら、計画的に公園の改修を実施していきたいと考えております。

4、投票率向上策の取り組みについて

【質問】

本年7月に執行された第25回参議院議員選挙の投票率は、県全体で45.4%の史上最低の投票率となりました。一方、長崎市の投票率は県全体を約3%下回る42.58%でありました。

また、4月に行われた統一地方選挙においても、長崎県議会議員選挙（長崎市選挙区）は44.68%と、こちらも過去最低の投票率となり、長崎市長・市議選も47.33%と、投票率は50%に届かず低迷しました。

このままでは、私は近い将来40%を切るのではないかと危惧いたしておりますが、市として投票率アップ対策としてどのように考えているのかご見解をお伺いいたします。

【回答】

平成28年度に選挙権年齢が18歳以上に引き下げられて以降は、将来有権者となる中高生を対象とした模擬選挙や出前授業を実施してきました。

模擬選挙については、平成29年度から中学生を対象としてスタートさせ、令和2年度までに市内の全市立中学校で実施する計画、これまでに16校で実施したところです。

出前授業については、平成27年度、28年度の2か年で市内の全高等学校において実施したところであり、さらに平成30年度からは、3か年で全高等学校で実施する計画としており、今後とも継続して実施することとしています。

また、若い有権者には「わかもの選挙クロストーク」を毎年開催し、さらに、ここ最近では、長崎大学文教キャンパスへの新規開設や北公民館の開設期間延長や地域センターについても開設期間延長など、期日前投票の拡充にも取り組んできました。